

アーカイブの「いま」を 見渡して ーデジタルアーカイブと、 その前提の動向についてー

<ウェブ公開版>

アーカイブサミット2017 in 京都：デジタルアーカイブの状況レビュー
(2017年9月9日 稲盛記念会館)

古賀 崇 (天理大学人間学部 教授)

Email: tkoga@tenri-u.ac.jp

Web: http://researchmap.jp/T_Koga_Govinfo

本日の内容

- ▶ はじめに：郷里の動きとアーカイブへの想い
- ▶ 近畿圏での取り組み
- ▶ アーカイブの「大型案件」と、現場で起きていること
- ▶ アーカイブのこれからを探る

はじめに

郷里の動きと
アーカイブへ
の想い

福岡県大牟田市の動向 (古賀の出身はその隣の柳川市)

- ▶ 世界文化遺産登録（明治日本の産業革命遺産）と、その陰での炭鉱遺産
 - ▶ 三池闘争、炭鉱労働、そのもとでのさまざまな文化活動...
- ▶ 大牟田・三池から去った人々と、関西からのかわり：2017年5・6月の「三池炭鉱閉山20年展」（エル・おおさか／関西大学博物館）

2015年4月のLRGフォーラム 「これからのアーカイブを考えるー 「アーカイブサミット2015」を受けて」

- ▶ 「良いことも、悪いことも／多数者も、少数者も／加害者も、被害者も／オープンなことも、秘密も」反映される、「人類に差し出す鏡」としてのアーカイブズ（平野泉氏）
- ▶ 「アーカイブとは、そもそも「これは文化的コンテンツである」とあらかじめ承認されたものばかりが集積される場所ではない。むしろ単体ではまったく価値のないものが、集積されることで価値を生む（かもしれないから保存しておく）場所こそがアーカイブなのだ」（仲俣暁生氏）
- ▶ 『ライブラリー・リソース・ガイド』(11), 2015.6, p. 112-131に再録

近畿圏での 取り組み

一部の例示のみとして

ユネスコによる登録

- ▶ 世界文化遺産
- ▶ 無形文化遺産
 - ▶ 山・鉾・屋台行事 ほか
- ▶ 「世界の記憶（Memory of the World）」
 - ▶ 御堂関白記（陽明文庫）
 - ▶ 東寺百合文書（京都府立総合資料館→京都府立京都学・歴彩館）
 - ▶ シベリア抑留・引揚に関する資料（舞鶴引揚記念館）

京都府立京都学・歴彩館での 資料のデジタル化・発信

▶ 東寺百合文書WEB

▶ <http://hyakugo.kyoto.jp/>

▶ 京の記憶アーカイブ

▶ <http://www.archives.kyoto.jp/>

大阪新美術館建設準備室での アーカイブの取り組み

- ▶ 具体美術協会関係資料
 - ▶ 抽象美術・ハプニングとして国際的に評価される
- ▶ インダストリアルデザイン・アーカイブズ研究プロジェクト
 - ▶ 家電製品のデザイン
- ▶ 萬年社コレクション
 - ▶ コマーシャル・フィルムほか広告関連
- ▶ 自館の建設に関するアーカイブ
 - ▶ 1990年 建設準備室設立 → 2021年度 開館予定

<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu120/artrip/>

その他

- ▶ 古地図ブーム？
 - ▶ 梅林秀行氏とタモリ氏
- ▶ 「社会」に関するアーカイブ
 - ▶ 大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）
 - ▶ 「労働」に関する図書館・アーカイブ
 - ▶ <http://shaunkyo.jp/>
 - ▶ あおぞら財団付属 西淀川・公害と環境資料館（エコ・ミューズ）
 - ▶ 西淀川大気汚染公害・裁判を中心とした公害・環境アーカイブ
 - ▶ <http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>

アーカイブの
「大型案件」と、
現場で起きていること

これも日本の動向から例示

国としての、あるいは広域での 取り組み

- ▶ 歴史的典籍NWプロジェクト（国文学研究資料館）
- ▶ 総合資料学（国立歴史民俗博物館）
- ▶ 公文書管理法の制定・施行
- ▶ 歴史資料ネットワーク（史料ネット）
 - ▶ 被災歴史資料保全活動
- ▶ 文化財レスキュー
- ▶ アート・アーカイブをめぐる議論

続き：国の機関の業務として

▶ 国立国会図書館

- ▶ デジタルコレクション
- ▶ オンライン資料収集制度（eデポ）
- ▶ インターネット資料収集保存事業（WARP）
- ▶ 「ジャパンサーチ」構想

など

▶ 国立公文書館

- ▶ 新館建設計画
- ▶ デジタルアーカイブ
- ▶ アジア歴史資料センター
 - ▶ 公開対象時期、連携（リンク）機関の拡張

その一方での現実

- ▶ 「寄贈された資料」の軽視・破棄
 - ▶ しかし「寄贈分の管理」の実情・課題を、寄贈側・受贈側の双方が、前もってどれだけ共有・理解できているか？
- ▶ 公文書管理法の運用の問題
 - ▶ 南スーダンPKO日報、森友学園・加計学園問題
- ▶ 山本幸三・地方創生担当大臣（当時）の「学芸員はガン」発言
 - 「#学芸員のおしごと」のツイッター発信・共有

「アーカイブの時代」 「アーカイブの社会化」の現実は？

- ▶ 東日本大震災の後の「誰でも、何でもアーカイブ」と、それへの危惧
 - ▶ 大岡聡氏（日本大学）曰く：権力への監視が果たされているか
 - ▶ 一旦つくった「（デジタル）アーカイブ」の維持・管理ができるか、また構築時点でそれを意識できているか
- ▶ （参照）大岡聡「3.11震災関連テレビ映像資料アーカイブをめぐって：歴史研究者の立場から」『ジャーナリズム＆メディア：新聞学研究所紀要』(8), 2015.3, p. 137-146.
<http://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/journalism.html>

アーカイブの これからを探る

いくつかの問題提起

「時の経過」と 「ダーク・アーカイブ」

- ▶ 「保存するだけで当面は公開しないが、一定の期間を経てから公開する」
- ▶ 著作権の問題、孤児著作物（オーファンワークス）の問題も、この枠組みで解決できないか？
- ▶ 関連：公文書館の世界での、国際的な「30年原則」
 - ▶ プライバシー関連情報などセンシティブなものは例外として、作成から30年経過した記録は原則として公開

ウェブ・アーカイブ、 ボーン・デジタルのアーカイブ

- ▶ インターネット・アーカイブと、各国単位でのウェブ・アーカイブ（日本ではWARP）との差
 - ▶ 「意識的な棲み分け」は可能か？
- ▶ 「デジタル・フォレンジック」
 - ▶ 消去されたデジタル記録の復元
 - ▶ 「捜査・訴訟のための証拠保全」にとどまらない役割？

「海外日本美術資料専門家（司書） の招へい・研修・交流事業」（JAL プロジェクト）での提案

- ▶ 日本の資料・情報を、国外で認識してもらうために必要なこと
 - ▶ 美術・アート以外の領域にも当てはまるはず！
- ▶ 「JAL2016公開ワークショップ2016報告書」の中の、「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための課題解決についての提案」（p. 211-212）を参照：

http://www.momat.go.jp/am/visit/library/jal2016contents_j/

- ▶ 関連：水谷長志「JALプロジェクト「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」2014-2016：3年間の総括としてのアンサー・シンポジウムおよび「提言」への「応答」としての「提案」について」『情報の科学と技術』 67(6), 2017.6, p. 309-314.

JALプロジェクトでの提案の項目

1. 海外のユーザについて

- ▶ 1.1 海外のユーザのことも対象者として認識すること
- ▶ 1.2 海外のユーザが日本から離れつつある現状を認識すること

2. データベースやデジタルアーカイブのあり方について

- ▶ 2.1 多言語対応、ローマナイズが必要であること
- ▶ 2.2 可視化が必要であること、およびそのためのポータルサイトが必要であること
- ▶ 2.3 オープンなアクセスが必要であること
- ▶ 2.4 ユーザにとって使いやすいこと
- ▶ 2.5 国際的なレベルでのデータベース構築やコンテンツ発信が必要であること

JALプロジェクトでの提案の項目 (続き)

3. 人的サポートとコラボレーションについて

- ▶ 3.1 応答してくれる窓口が必要であること
- ▶ 3.2 アート・アーキビストの配置が必要であること
- ▶ 3.3 交流・ネットワーク作りやコラボレーションが重要であること

おわりに：課題のまとめ

1. 作成の時点から「残す可能性」を考慮すること
2. 「残す／捨てる」の基準を、内外に説得力あるかたちで定めること（評価選別 appraisal）
 - ▶ 「残すものをいつ、どのようにオープンにするか」もあわせて
3. 残すものの整理・検索・発見のしくみを定めること
4. 幅広い利用の可能性と、その効果を想定すること
5. こうした業務に従事する人々が「きちんと食べていける」ようにすること

ありがとうございました

- ▶ 本発表は、JSPS科研費 JP16K00454「政府情報リテラシーの日米比較と教育内容の体系化に関する研究」（基盤研究(C)、研究代表者：古賀崇）による成果の一部です。



天理図書館



京都国際マンガミュージアム